

私の
東京物語

全10話

1

現在もJR武蔵境駅南側に位置する武蔵野赤十字病院で、一九五六年四月十二日に僕は生まれました。

たなか やすお
田中 康夫

生年の昭和三十一年は、「もはや『戦後』ではない」と旧経済企画庁の「年次経済報告(経済白書)」が記し、「高度経済成長」へと日本が踏み出し始める時期。他方で国際連合が「六十五歳以上を高齢者と定義」したのも同年でした。

長じて一橋大学在学中に「なんとなく、クリスタル」で昭和五十五年度「文藝賞」を受賞した一九八〇年は、「高度消費社会」幕開けの時期。「バブル景気」と呼ばれる泡沫経済が日本を席卷するのは、八〇年代後半から九〇年代初頭にかけてです。



武蔵境で生まれる

デビュー作「なんとなく、クリスタル」は社会現象に

四百四十二に及び単行本の註の最後に、人口問題審議会の報告「将来人口の漸減化は免れない」と、「厚生白書」から老年人口比率の将来予測を採録しました。当時9・1%だった高齢化率が二十年後の二〇〇〇年には14・3%に達するとの数値に接し、僕は衝撃を受けたのでした。

が、その予測をはるかに上回る速度で超少子・超高齢社会は進行します。長野県知事に就任した二〇〇〇年の高齢化率は17・4%。今年二〇一五年は26・7%。東京の人口とて、オリンピック開催予定の二〇二〇年には減少へと転ずる見込みです。

とまれ、来年には「還暦」を迎える僕の「東京物語」を綴って参りましょう。

1980年「なんとなく、クリスタル」で文藝賞。2000~2006年長野県知事。2007~2012年参院議員、衆院議員。主な作品に「たまりななく、アーベイン」「神戸震災日記」など。